

## 「郡道」と八高正門

名古屋市千種区から昭和区、瑞穂区に至る「郡道」については、何回もレポートしてきた。「郡道」は旧制八高との関わりが深い。

写真は懐かしの名古屋市大滝子キャンパスの西側、今はさびれた滝子商店街の方だ。まっすぐ北に行くと、名工大、古井ノ坂あたりまで続く。

「郡道」はてっきり、このまま南に行くと思っていた。南に歩いたが、バスが通れる道幅などなかった。変だなと思いつつ、「郡道」をぐんぐん歩いたこともある。勘違いの「郡道をゆく」だ。

「郡道」はここから右折して、写真のように、今は使われていない市大滝子キャンパス「南門」あたりを通っていた。ここが千種区から瑞穂区に至るバス通りだった。狭い道を走る「郡道バス」だ。

長い間、「郡道」は滝子商店街をまっすぐ南に行くものと思いこんでいた。古地図で見て「郡道」はいったん東に曲がり、それから南に直進することを知ったときは、なんだか「ショック」であった。

滝子商店街から東に曲がった、この道が昔の「郡道」であり、旧制八高の正門があったところだ。東に人文社会学部棟、その前にテニスコートがある。10数年にわたり教壇に立った、懐かしの人文社会学部棟である。この建物は見る方向により、イメージがかなり違う。研究室にいますと、テニスコートから学生の声が聞こえてきた。

八高正門があった現在の「南門」は閉じられ、「ごみステーション」になっている。人通りも少なく、ここに八高正門があり、かつては市バスも走る「郡道」だったとは想像もつかない。そう言えば、自然科学研究センターの杉浦先生が、最終講義で八高時代と現在を比較されていたのを思い出す。当時の華麗な八高正門が、ごみステーションに変わったと嘆いておられた。

八高時代の「正門」は、犬山の明治村に移され、写真のように展示されている。現在の「ごみステーション」からは、あまりの違いに当時を想像すらできない。せつかくの八高正門跡なので、なにか記念碑のようなものを作れないであろうか。



(2015年10月10日)